

2013年3月18日

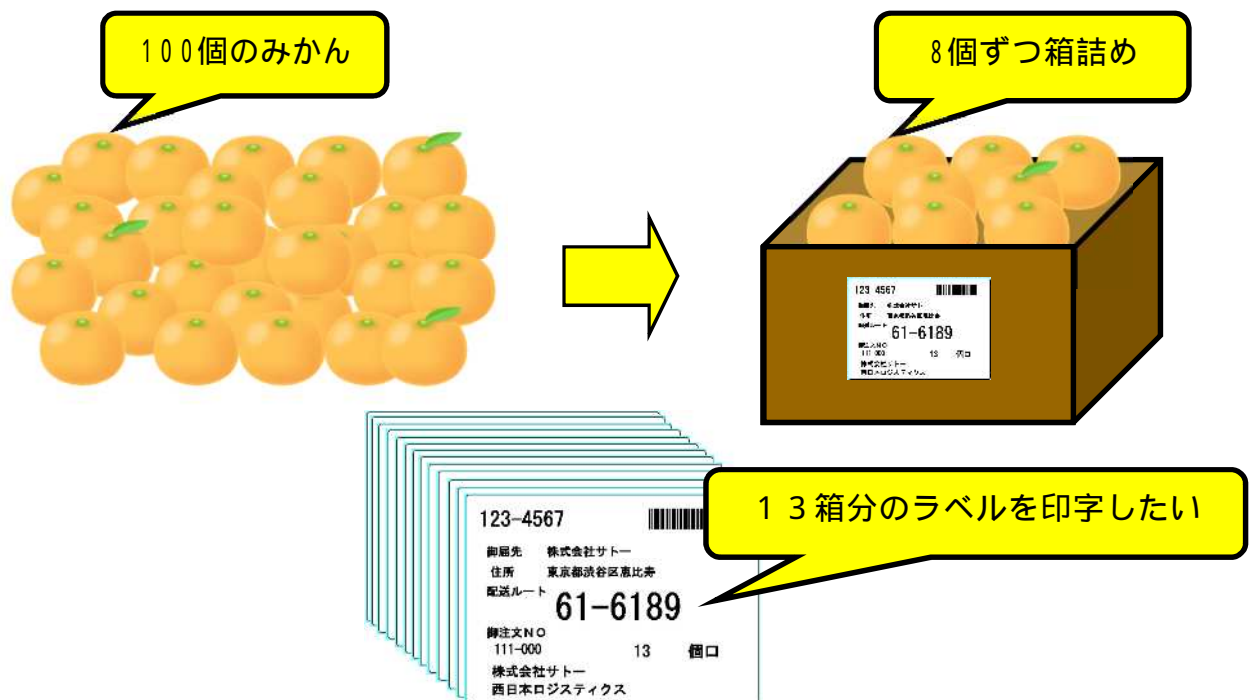
株式会社サトー

## 発行枚数演算（発行組数）機能 設定マニュアル

概要：従来レイアウト管理の入力画面で設定できる発行枚数演算（発行組数）は、発行枚数と固定値の組み合わせのみでしたが、今回新たに変数の指定ができるよう機能を拡張いたしました。これにより、入力値から発行枚数を自動算出するなど従来に比べより複雑な演算が可能になりました。

### 使用場面イメージ

100個ある商品を8個ずつ箱詰めし、箱の数分ラベルを発行したい場合



$$100 \div 8 = 12 \text{ 余り } 4$$

13箱分のラベルが必要となります。

発行枚数演算（発行組数）機能を活用することで  
必要な枚数を演算して発行できます！

## 発行枚数演算（発行組数）設定画面

従来

発行枚数に対し、計算種類の指定と計算値(固定値)を設定するのみ

今回

計算対象項目を左辺と右辺それぞれ指定可能  
 入力値(変数)が追加になり、従来に比べ複雑な組み合わせでの演算が可能

この資料の記載内容は Multi LABELIT V4 ( Ver.4.5 ) の仕様に基づいています。

この資料は、機能拡張した発行枚数演算 ( 発行組数 ) 部分にポイントを絞って記載しています。Multi LABELIST V4 全般の操作・使用方法に関しては、ヘルプ及び練習マニュアルをご覧ください。

既に Multi LABELIST V4 をご使用頂いているお客様は弊社ホームページより最新版のプログラムをダウンロードしてセットアップすることをご使用頂けます。以下アドレスよりダウンロードしてください。

<http://www.sato.co.jp/download/software/content/view/47/5/>

新規でご購入を検討中のお客様、また「Multi LABELIST」「Multi LABELIST PRO」「Multi LABELIST me」からバージョンアップをご検討中のお客様は弊社営業所までご連絡下さい。

[http://www.sato.co.jp/company/location\\_jp.html](http://www.sato.co.jp/company/location_jp.html)

練習マニュアルダウンロードアドレス

<http://www.sato.co.jp/download/software/content/view/47/5/>

### 【演算組み合わせパターン】

「計算対象 1」と「計算対象 2」の項目を左辺・右辺として、指定した「計算種類」で計算を行います。

それぞれの計算対象で設定できる項目は以下の通りです。

< 計算対象 1 >・・・「発行枚数」、「固定値」、「入力値（変数）」

< 計算対象 2 >・・・「固定値」、「入力値（変数）」

組み合わせ方により、指定できないパターン（どちらも固定値など）もありますので、以下の組み合わせパターンをご確認ください。

計算対象 1	計算種類	計算対象 2	演算結果
【発行枚数】	( +、 -、 ×、 ÷、 余り )	【固定値】	= 実際の発行枚数
【発行枚数】	( +、 -、 ×、 ÷、 余り )	【入力値】	
【固定値】	( +、 -、 ×、 ÷、 余り )	【入力値】	
【入力値】	( +、 -、 ×、 ÷、 余り )	【固定値】	
【入力値】	( +、 -、 ×、 ÷、 余り )	【入力値】	

以下 100 個の商品を 8 個ずつ箱詰めし、13 枚のラベルを発行したい場合の発行枚数演算（発行組数）の設定をご説明いたします。

**【操作の流れ】**

1. レイアウト管理で演算の条件に使用する変数を設定します・・・P5  
発行枚数演算に入力値（変数）を使用する場合、レイアウト管理のデザイン画面で変数を作成し、変数文字としてレイアウト上に配置します。
2. レイアウト管理で発行枚数演算（発行組数）の条件設定を行います・・・P7  
レイアウト管理のデザイン画面でレイアウトを作成したら、入力画面にて発行枚数の演算条件の設定を行います。
3. 発行画面にて実発行枚数を確認します・・・P12  
発行画面にて入力項目に値を入力すると、実発行枚数項目に演算結果がセットされます。設定した条件どおりの発行枚数になっているか確認します。

**【発行枚数演算の計算対象に設定する変数、変数文字の設定】**

発行枚数演算の計算対象項目に「入力値」を使用するためには、予め「レイアウト管理」画面で「変数」を作成し、「変数文字」としてレイアウト上に配置しておく必要があります。

本資料では以下の「変数」を発行枚数演算の条件として使用します。

**< 変数 >**

- 変数種類・・・・・・・・・・入力
- 入力変数データ種類・・・・文字
- 変数名・・・・・・・・・・個数
- 桁数・・・・・・・・・・6桁
- 編集パラメータ・・・・・・・・なし

（参考画面）



**< 変数 >**

- 変数種類・・・・・・・・・・入力
- 入力変数データ種類・・・・文字
- 変数名・・・・・・・・・・入り数
- 桁数・・・・・・・・・・3桁
- 編集パラメータ・・・・・・・・なし

「入力値」は、発行時に値を入力し演算するため、その値をラベルやタグに印字する必要が無い場合でも、「変数文字」としてレイアウト上に配置する必要があります。

印字不要の場合は、文字設定画面で「印字しない」を指定してください。

「印字しない」とした変数文字はグレーで表示されます

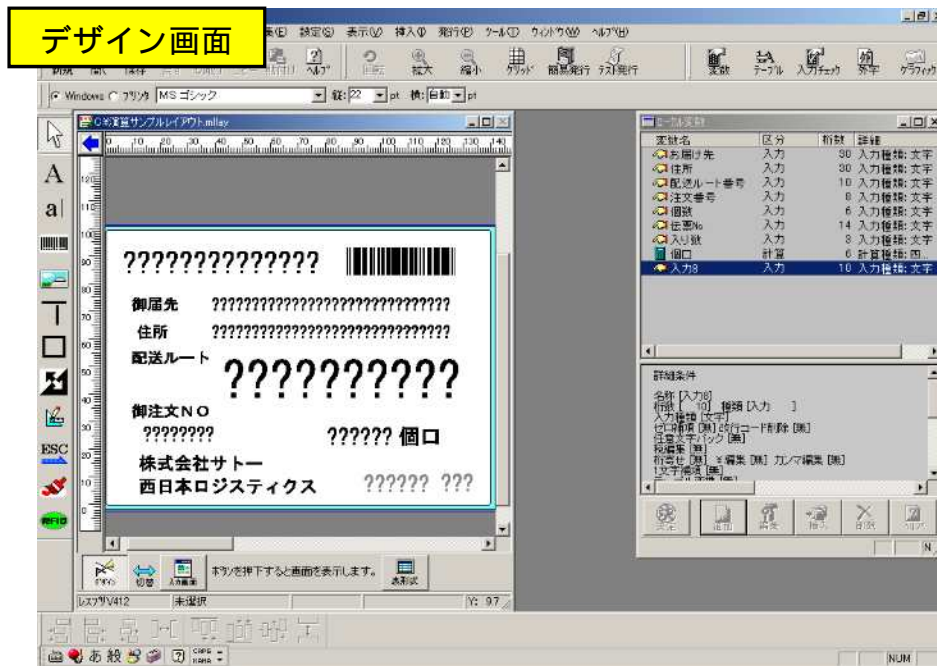
本資料のレイアウトでは、作成した変数（個数および入り数）はラベルやタグに印字不要のため、「印字しない」設定の変数文字とします。

「変数」の設定方法や「変数文字」のレイアウト配置については、各画面のヘルプをご参照ください。

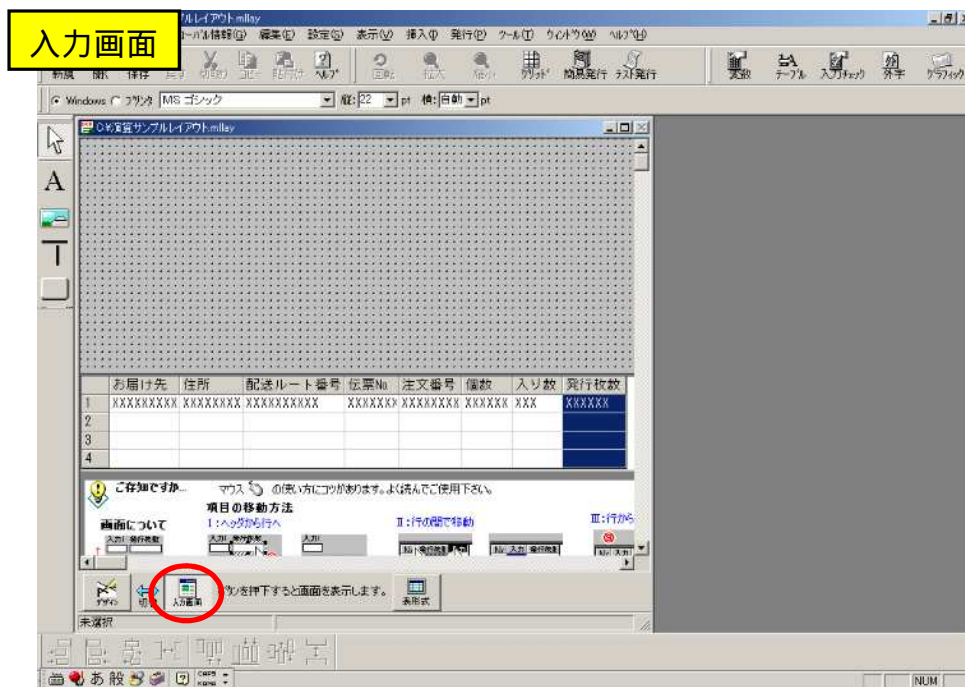
既存のレイアウトに本機能を設定する場合は、既に設定されている「変数」や「変数文字」を条件にご利用頂いて構いません。

【発行枚数演算（発行組数）の条件設定を行います】

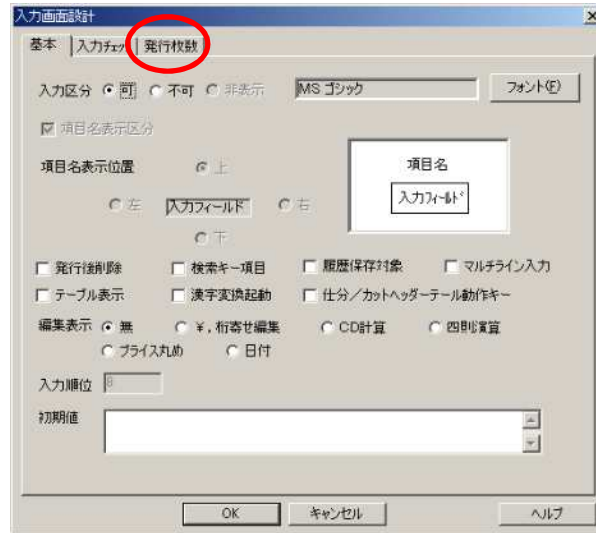
1. 「レイアウト管理」画面で、発行枚数演算（発行組数）の条件設定を行うレイアウトを開きます。



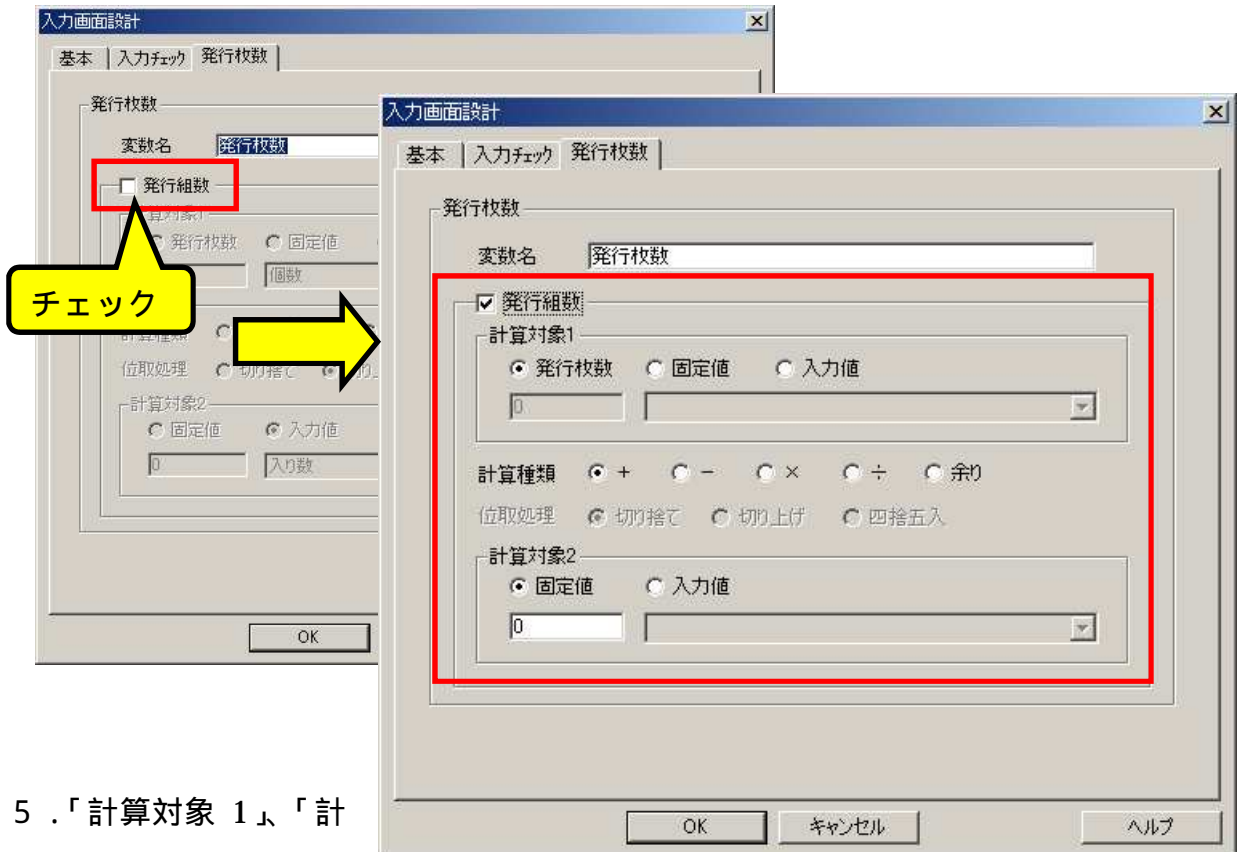
2. 「入力画面」ボタンをクリックし、入力画面を表示します。



3. 「発行枚数」項目の上でダブルクリックし、「入力画面設計」を表示し、「発行枚数」タブをクリックします。



4. 「発行枚数」画面の「発行組数」チェックボックスにチェックを入れると計算対象 1、計算種類、計算対象 2 などの条件入力が有効になります。



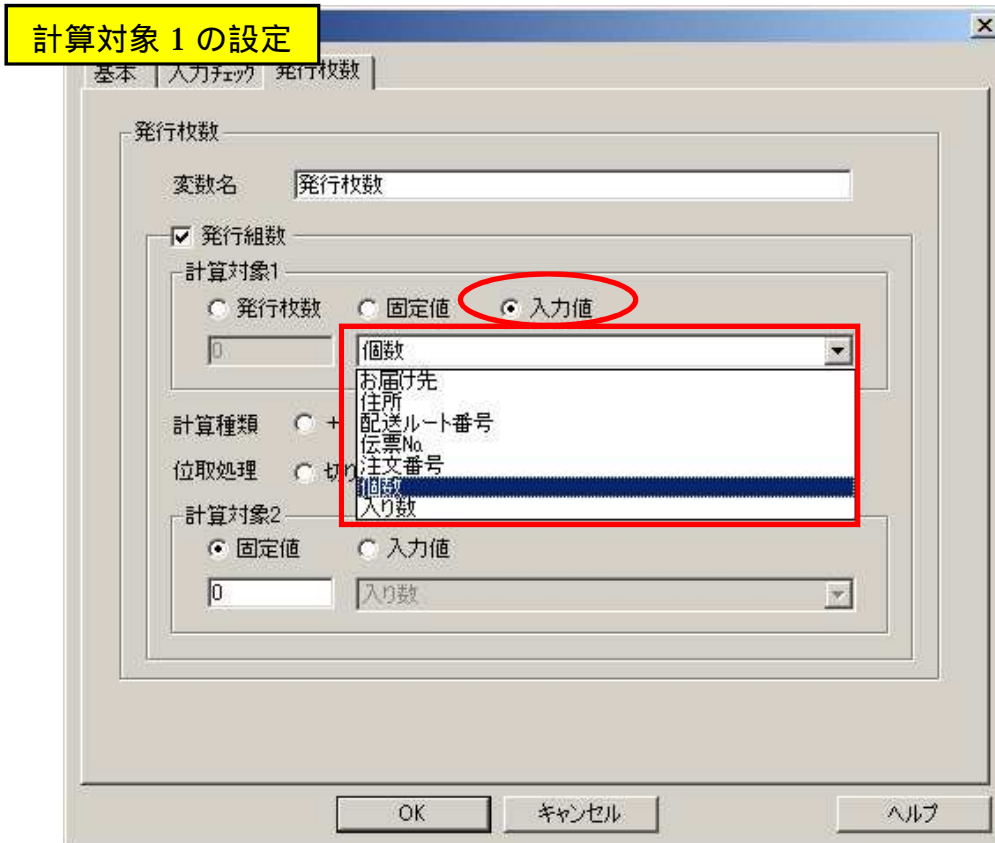
5. 「計算対象 1」、「計



算種類」、「計算対象2」の項目設定をします。

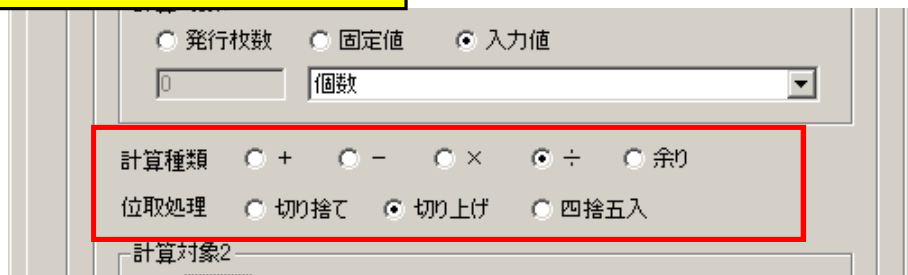
本資料では、「計算対象1」「計算対象2」共に「入力値」を選択します。

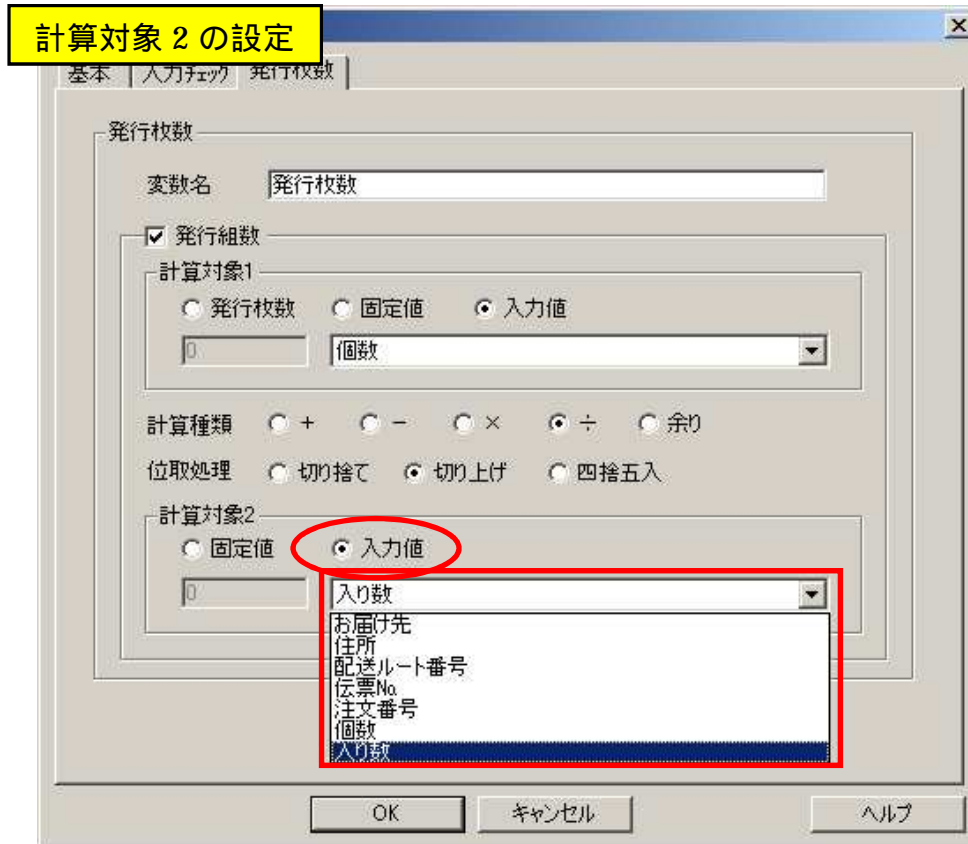
「入力値」を選択すると、「変数文字」を指定できるようになりますので【発行枚数演算の計算対象に設定する変数、変数文字の設定】で作成、配置した変数文字(本資料では個数と入り数)をそれぞれ指定してください。



「計算種類」を選択します。÷(除算)の場合のみ、「位取処理」も選択します。本資料では「計算種類:÷(除算)」、「位取処理:切り上げ」を選択します。

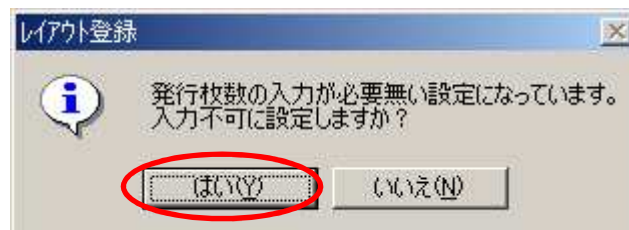
**計算種類、位取処理の選択**





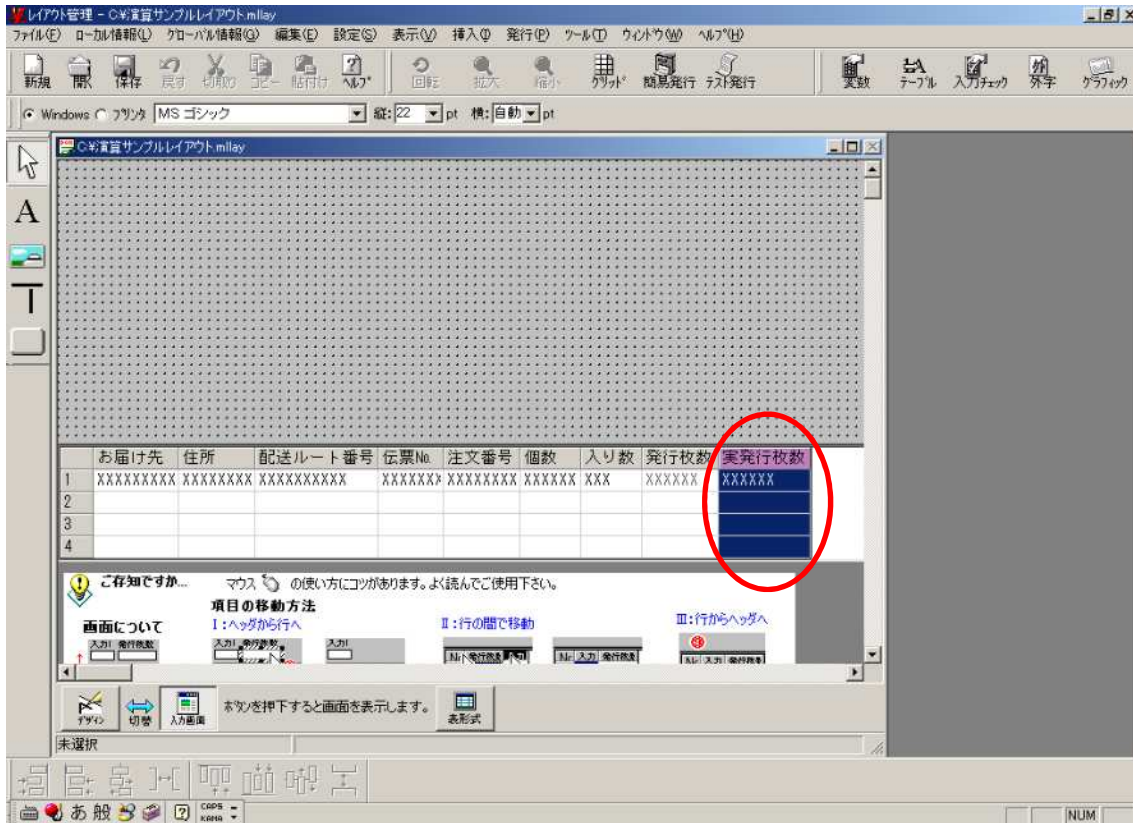
6. 「計算対象1」「計算種類」「計算対象2」の設定ができたなら、OKボタンをクリックし設定を完了します。

本資料のように、「計算対象1」で「発行枚数」項目を使用しない場合、以下のメッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。



上記メッセージで、「いいえ」を選択した場合、発行画面で「発行枚数」に値が入力できますが、実発行枚数を変更する事は出来ません。「発行枚数」を計算対象に使用しない場合は、入力不可にすることをお奨めします。

7. 設定が完了すると、入力項目の「発行枚数」の右隣に「実発行枚数」項目が表示されます。

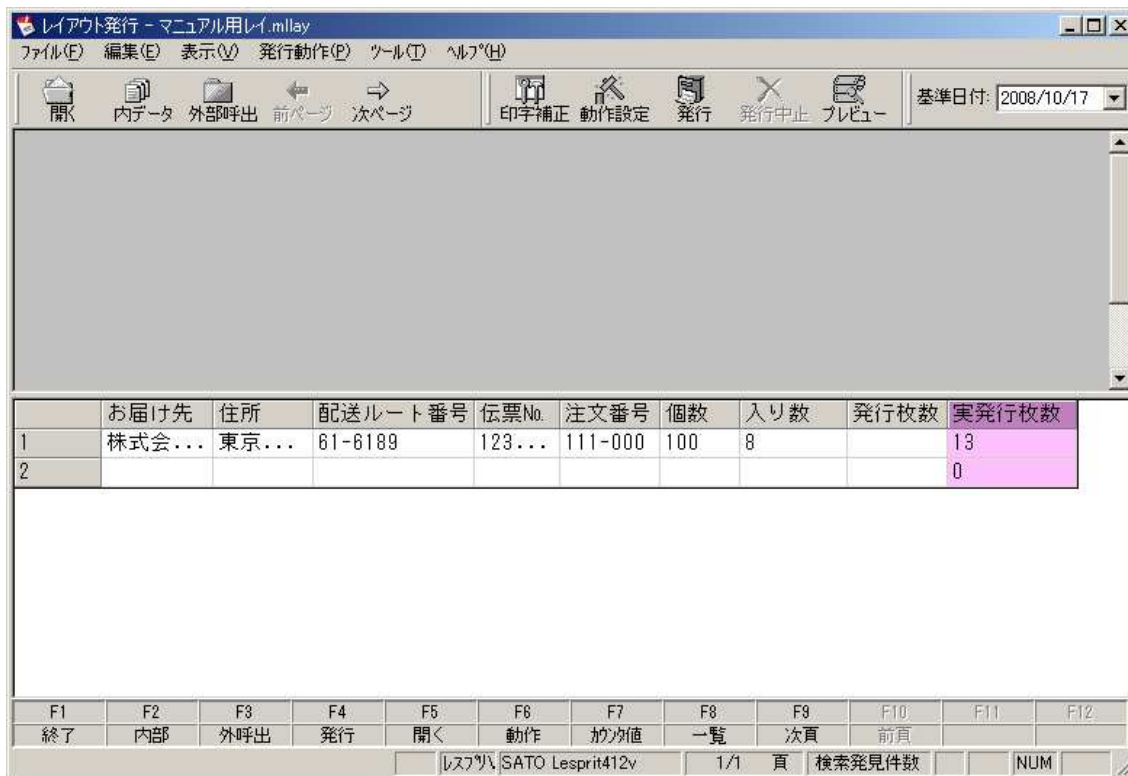


以上で設定作業は完了です。

次の項目で、発行画面で値を入力し、実発行枚数（演算結果）を確認しましょう。

### 【発行枚数演算（発行組数）結果確認】

レイアウト発行画面にて入力項目に値を入力し、「実発行枚数」項目に正しい演算結果の値がセットされるかを確認します。



	お届け先	住所	配送ルート番号	伝票No.	注文番号	個数	入り数	発行枚数	実発行枚数
1	株式会社...	東京...	61-6189	123...	111-000	100	8		13
2									0

本資料では以下の条件で演算していますので、演算結果は13枚となります。

<条件>

100個ある商品を8個ずつ箱詰めし、箱の数分ラベルを発行したい場合

計算対象1：個数（100個）

計算対象2：入り数（8個）

計算種類：÷（除算）

位取処理：切り上げ

$$\text{個数（100個）} \div \text{入り数（8個）} = 12 \text{ 余り } 4 \quad \text{切り上げにより } 13$$

### 注意事項

- 発行枚数演算（発行組数）機能の拡張は、レイアウト管理及びレイアウト発行にのみ適応されています。  
振分管理及び振分発行に関しては、従来どおりの機能となりますのでご注意ください。
- 発行枚数の演算時には、計算対象項目である「発行枚数」「固定値」「入力値」及び演算結果である「実発行枚数」の値に有効な範囲（実発行枚数の場合は発行対象範囲）があります。以下をご確認ください。

項目	範囲の種類	値
発行枚数	有効範囲	1 ~ 999999 の整数
固定値	設定可能範囲	1 ~ 999999 の整数
入力値	有効範囲	0 ~ 999999 の整数
実発行枚数	発行対象範囲	1 ~ 999999 の整数

**計算対象項目に上記の有効範囲外の値を入力した場合や、演算結果の値が発行対象範囲外となった場合は、「実発行枚数」には「0」がセットされ、発行の対象外となります。**

以下に発行枚数演算のパターンを記しますので、発行対象となるもの、対象外となるものの参考としてください。

< 発行組数の演算パターン >

発行枚数 + 固定値（1 の場合）

発行枚数	実発行枚数	
	0	【発行対象：×】発行枚数が 1 ~ 999999 の整数以外の為
0	0	【発行対象：×】発行枚数が 1 ~ 999999 の整数以外の為
1	2	【発行対象： 】
999999	0	【発行対象：×】実発行枚数が 1 ~ 999999 の範囲外の為

発行枚数 + 入力値

入力 1	発行枚数	実発行枚数	
0	1	1	[発行対象: ]
1	0	0	[発行対象: ×] 発行枚数が 1 ~ 999999 の整数以外の為
	1	0	[発行対象: ×] 入力値が 0 ~ 999999 の整数以外の為
1		0	[発行対象: ×] 発行枚数が 1 ~ 999999 の整数以外の為
999999	1	0	[発行対象: ×] 実発行枚数が 1 ~ 999999 の範囲外の為

固定値(1の場合) + 入力値

入力値 + 固定値(1の場合)

「発行枚数」未入力の場合

入力 1	発行枚数	実発行枚数	
		0	[発行対象: ×] 入力値が 0 ~ 999999 の整数以外の為
0		1	[発行対象: ]
999999		0	[発行対象: ×] 実発行枚数が 1 ~ 999999 の範囲外の為

入力値 + 入力値

「発行枚数」未入力の場合

入力 1	入力 2	発行枚数	実発行枚数	
1	1		2	[発行対象: ]
	1		0	[発行対象: ×] 入力値が 0 ~ 999999 の整数以外の為
1			0	[発行対象: ×] 入力値が 0 ~ 999999 の整数以外の為
0	1		1	[発行対象: ]
1	999999		0	[発行対象: ×] 実発行枚数が 1 ~ 999999 の範囲外の為

3 . 発行枚数演算 (発行組数) 機能を使用する上で、「計算対象 1」に「発行枚

数」を指定しない設定のレイアウトは、発行画面にて「発行枚数」に値を入力しても実発行枚数を変更する事は出来ません。

この「5」を入力しても  
実発行枚数の変更は不可

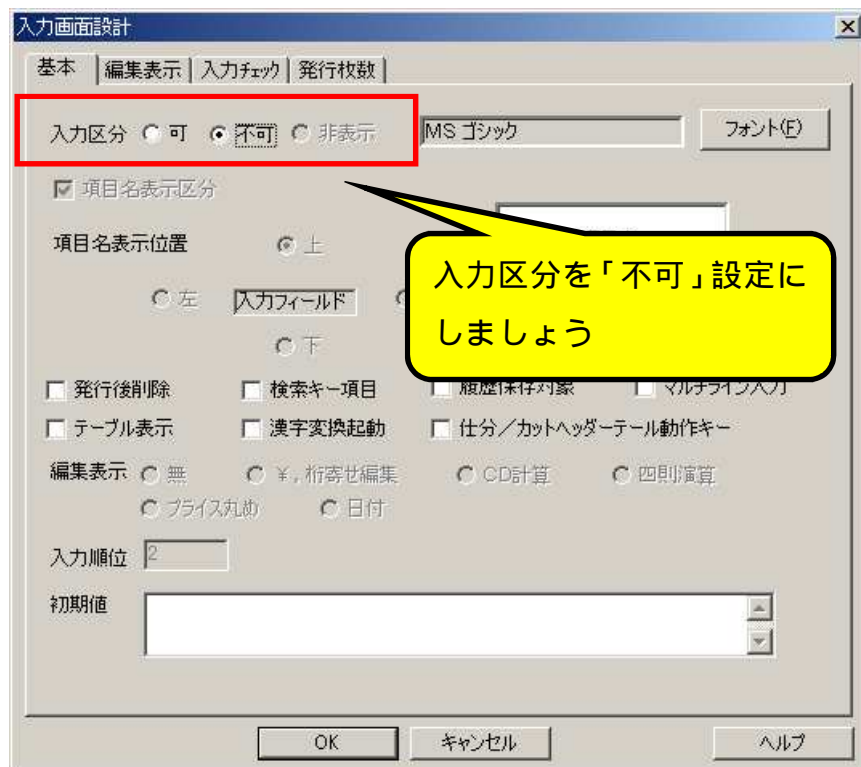
	お届け先	住所	配送ルート番号	伝票No.	注文番号	伝票入力数	発行枚数	実発行枚数
1	株式会...	東京...	61-6189	123...	111-000	100	5	13
2								0

F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12
終了	内部	外呼出	発行	開く	動作	おの値	一覧	次頁	前頁		

1/1 頁 検索発行件数 NUM

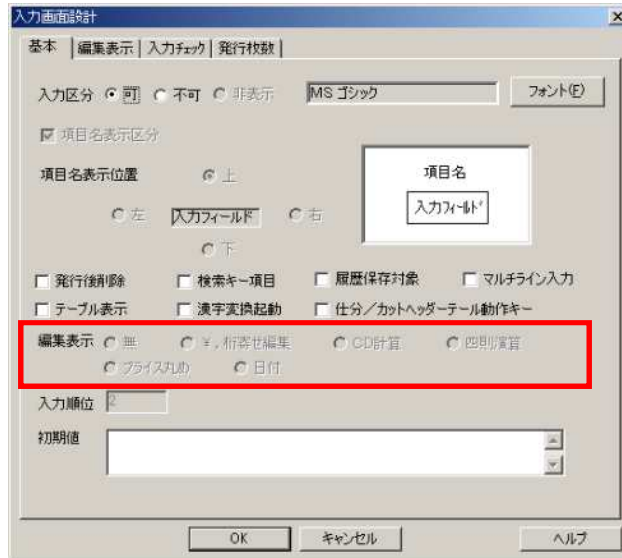
発行時の混乱を避けるためにも、上記の場合は「発行枚数」を「入力不可」設定とすることをお奨めします。



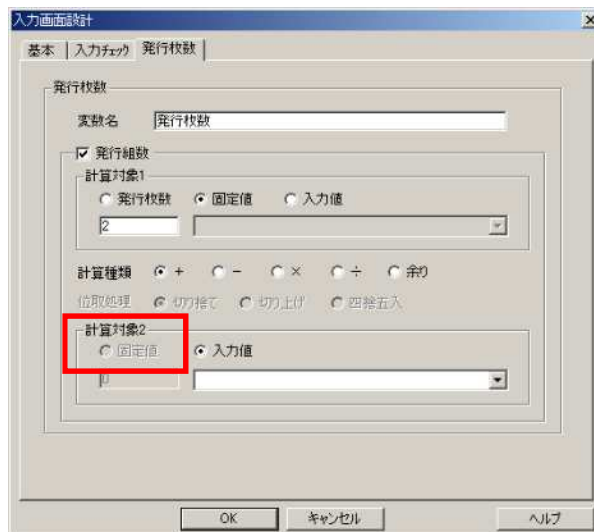
#### 4. 発行枚数演算（発行組数）機能と、「発行枚数」項目の編集表示機能を同時

に使用することはできません。

「発行枚数」画面の「発行組数」チェックボックスにチェックを入れると編集表示設定部分は入力不可になります。



5. 「計算対象1」及び「計算対象2」両方に「固定値」を指定することはできません。「計算対象1」で「固定値」を選択した時点で、「計算対象2」の「固定値」は選択不可になります。



以上